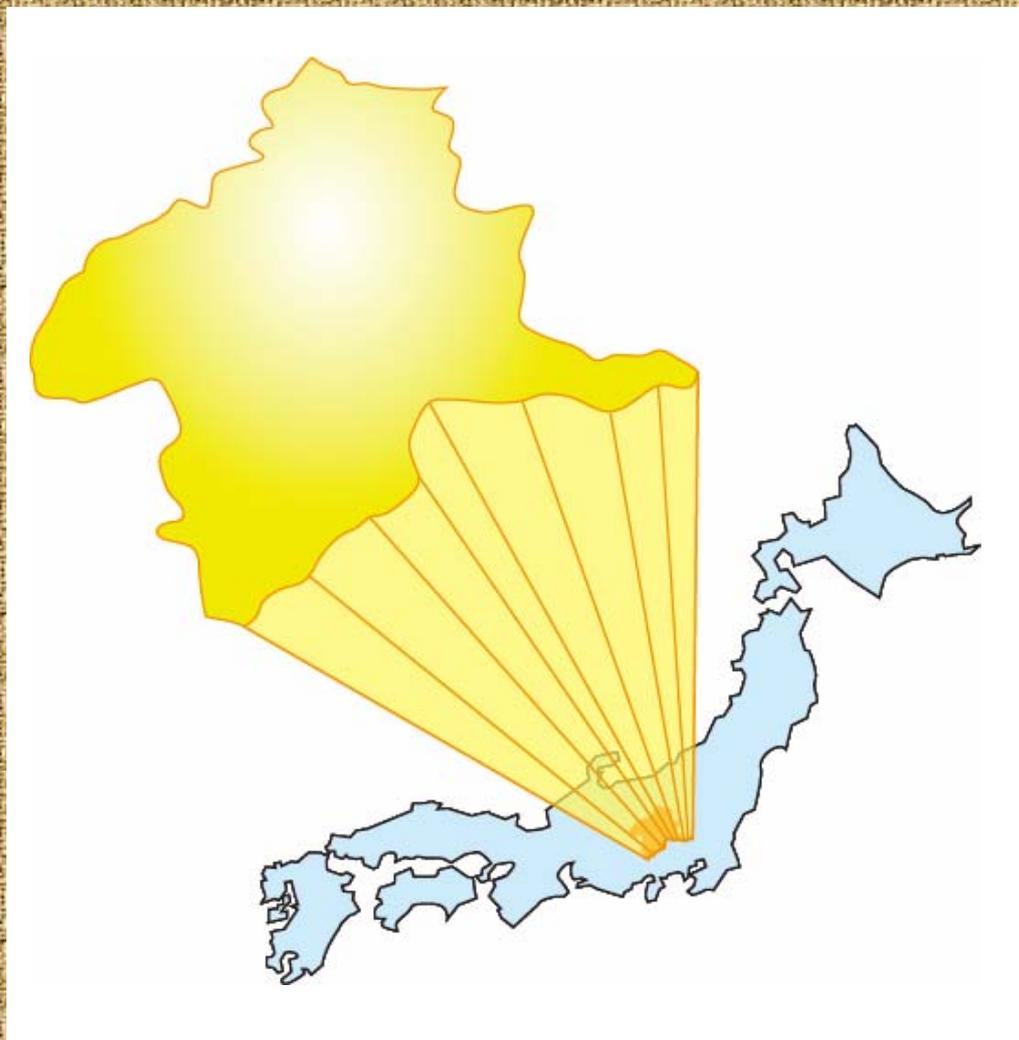


ぐんまの道づくり

平成19年度業績計画書
(アウトカムプラン)



群馬県道路協議会

も く じ

1. アウトカムプランの策定について	1
2. 政策方針と成果指標の設定	2
3. 成果指標による業績の評価	4
4. 交通事故の削減	5
5. 医療・福祉の向上	7
6. 渋滞の解消	9
7. 自転車走行空間の確保	11
8. 産業・観光の振興	14
9. 情報の公開	20

1. アウトカムプランの策定について

地域における道路行政マネジメントの確立に向けて

新たな道路行政への転換

- 道路行政では、他の行政分野、公共事業分野に先駆けて、成果主義の行政マネジメントを推進しています。
- 群馬県においても、平成 15 年度より、目指すべき成果を事前に宣言した「ぐんまの道づくりアウトカムプラン」を発表し、成果主義の道路マネジメントを開始しています。

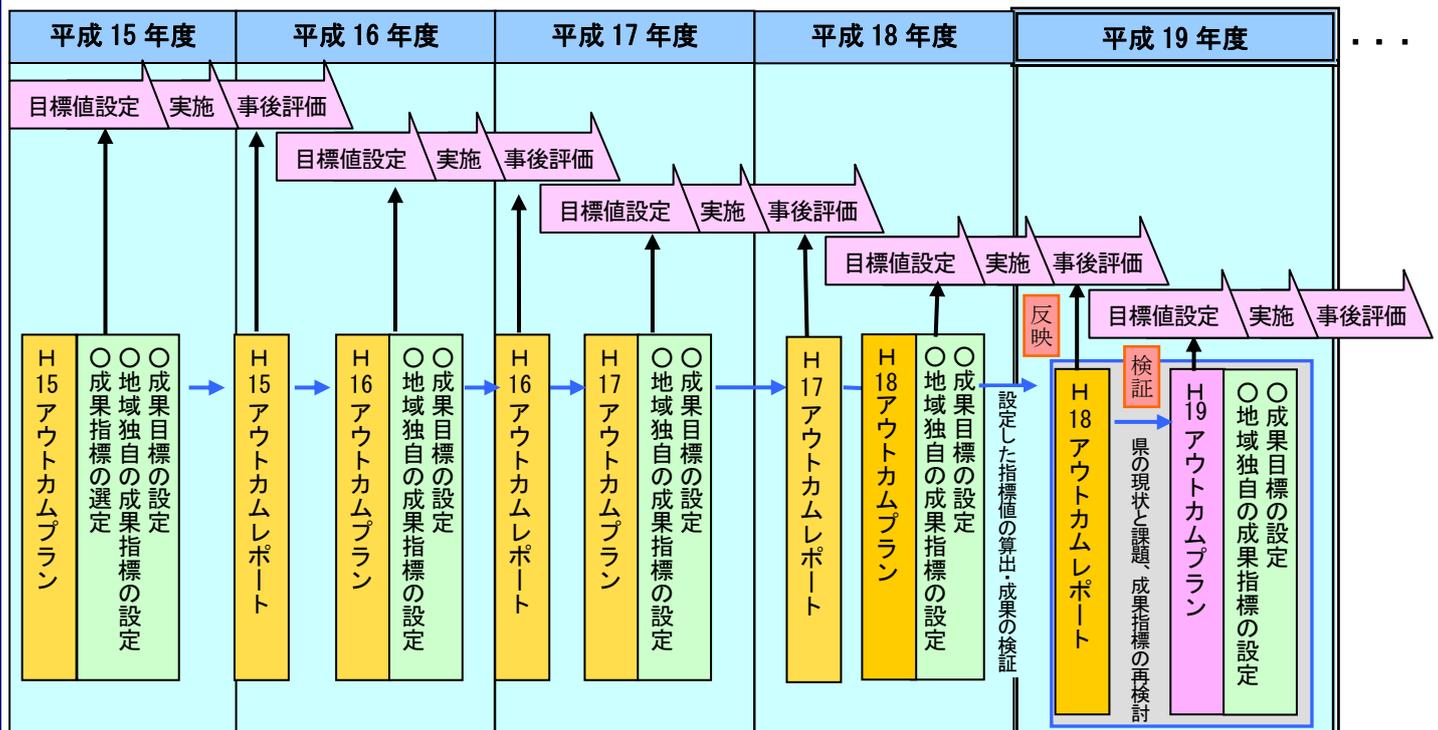
目標年度最終年度となる道路行政マネジメントを実施

- 事前に数値目標を明確に打ち出し、事後に達成度を検証し、評価結果を次年度の行政運営に反映するという「マネジメント・サイクル」も5年目（最終年度）を迎えました。
- 平成 19 年度までの5年間の計画期間も残すところ1年となり、目標達成に向けた取組を強化するとともに、今後も引き続き、透明性、客観性の高い効果的、効率的な施策、事業の展開を図り、より一層県民の皆様の生活実感にあう道路行政の実現を目指します。

「平成 19 年度アウトカムプラン」の策定

- 群馬県では、県民の皆様の生活実感にあう道路行政への転換を目指し、地域の特性や課題、ニーズを踏まえて選定した成果指標に基づく「平成 19 年度アウトカムプラン」を策定いたしました。ポイントは以下の3点です。

- ①年度当初に成果指標の現況値及び事業実施に伴う年度末の目標値を提示
- ②実施する施策・事業の内容及び期待される成果を詳細に検証
- ③これまでの反省を今年度に活かす枠組み（マネジメント・サイクル）の導入

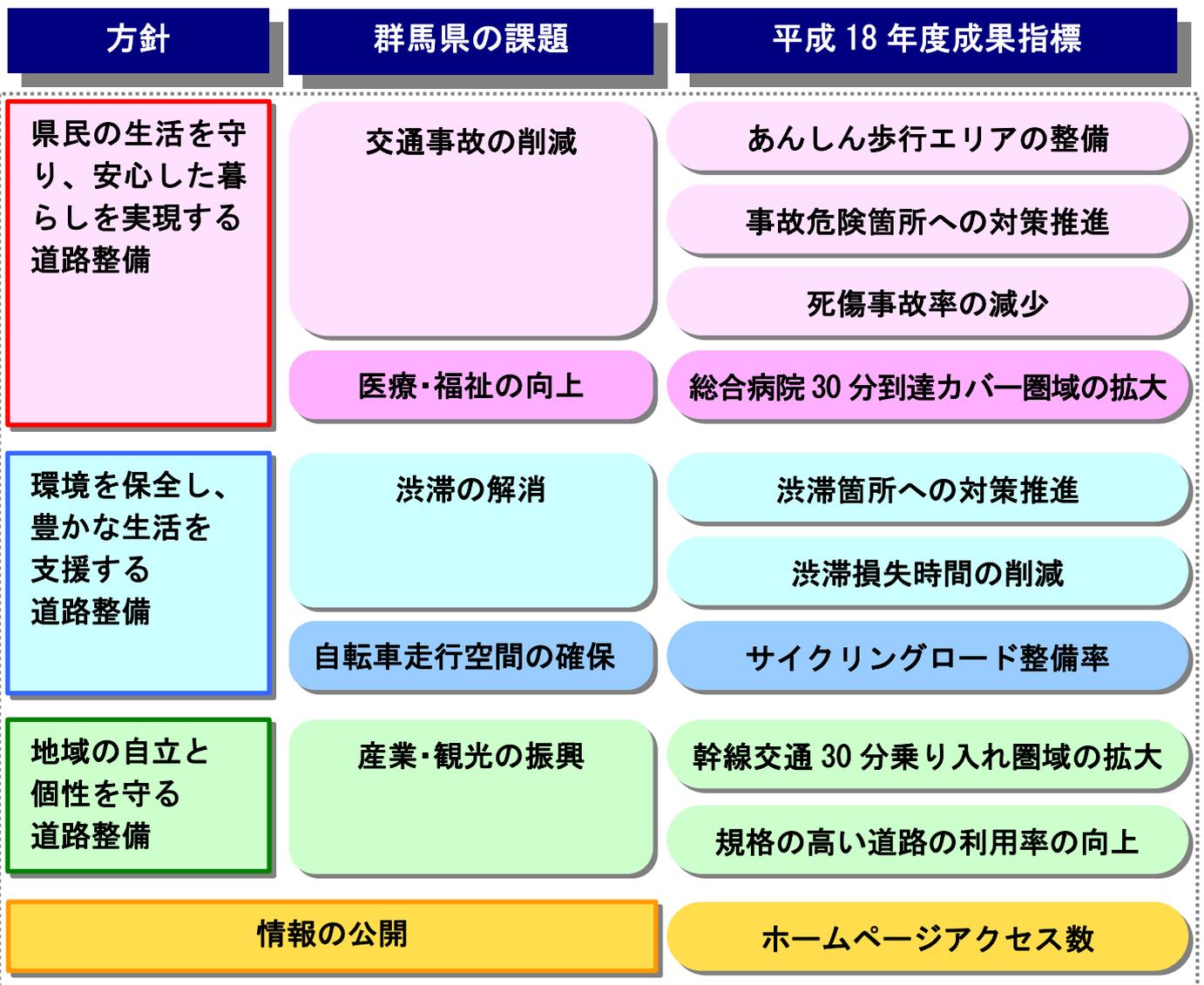


2. 政策方針と成果指標の設定

4つの方針と指標の選定

「平成18年度アウトカムプラン」では、群馬県の道路行政が目指すべき成果を示す指標として、施策の特性に応じた10指標を設定し、4つの施策方針（政策課題）に応じて分類した上で、社会的背景（群馬県の課題など）や施策の必要性、平成18年度に実施される事業、及びそれに伴い改善が期待される指標の現況値・目標値を県民の皆様に提示しました。

平成19年度の道路行政の推進にあたっては、平成18年度アウトカムレポートを踏まえ、目指す成果の数値目標達成に向けて事業に取り組んでいきます。



事業の実施による成果指標値の改善状況の把握・検証と課題の整理：
「平成18年度アウトカムレポート」

平成19年度の群馬県の道路行政への取組：「平成19年度アウトカムプラン」

「達成度報告書」、「業績計画書」と「道路見える化計画」との連動

■「道路見える化計画」とは



国や地方の財政が逼迫する中で、これからの行政は、限られた予算で効率よくサービスを提供していかなければなりません。

そこで国土交通省では、道路の課題をデータできちんと把握し、その最適な解決法を見だし、解決を急ぐべきところから対策を講じていくため、「道路見える化計画」を推進しています。

課題のデータや、それに基づいた解決策とその結果を利用者、納税者の皆さんに「見える化」し、効率的に道路行政を進めていくほか、今まで見えにくかった道路行政を、もっとわかりやすく「見える化」することも、もう一つの目的です。工事の実施の際にも、何のための工事か「見える化」していきます。

群馬県内の各道路管理者は、現在、「渋滞見える化プラン」や「交通安全見える化プラン」などの取組を始めています。

渋滞見える化プラン

「渋滞見える化プラン」では「渋滞箇所」「走りにくさ」「災害」「地形・気象」の4つの視点から問題箇所を抽出し、さらに道路利用者の皆様からの意見を基に、39箇所の渋滞箇所を設定しています。

交通安全見える化プラン

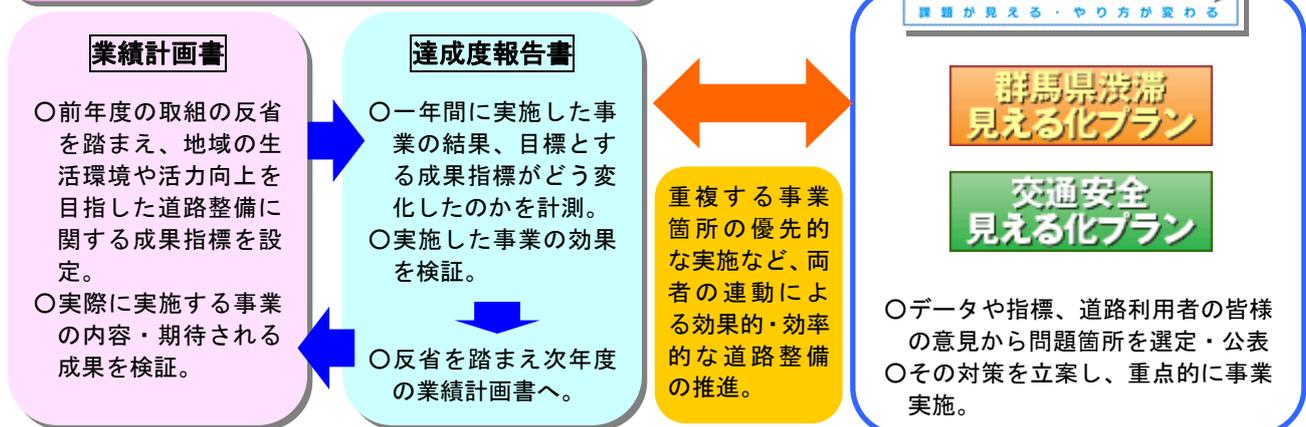
「交通安全見える化プラン」では、群馬県の交通事故特性を考慮して「死傷事故率」「死者率」「歩行者・自転車事故」「夜間事故」「子供の事故」「高齢者の事故」「横断者の事故」「安全性が危惧される箇所」から問題箇所を抽出し、渋滞と同様に道路利用者の皆様からのご意見を加味して、代表的な箇所34箇所を設定しています。

■「達成度報告書」、「業績計画書」と「道路見える化計画」との連動

群馬県では、平成15年度より、道路を整備することによる地域の生活環境の向上を客観的な指標で評価し、その結果を次の道路整備計画につなげていくためのしくみを導入しています。道路整備による地域の生活環境向上や活力向上のための目標（指標）をあらかじめ設定し、実際の道路整備がその指標の向上にどのように寄与したかを点検・評価する「達成度報告書」と、前年度の達成度を基に、次年度の新たな目標を設定する「業績計画書」を策定し、「道路行政マネジメント」の確立を進めています。

今後は、「道路見える化計画」に基づいて、事業の優先順位を明確にしながら、効率的・効果的な整備を進め、地域の暮らしやすさや活力の向上に資する道路整備を推進します。

ぐんまの道づくり「達成度報告書」「業績計画書」



3. 成果指標による業績の評価

群馬県が抱える地域課題に対して必要な対応策を実施するにあたって、どのような成果指標で数値化することが県民の皆様にとってわかりやすいかを考慮し、以下の成果指標を設定しました。

方針	課題	成果指標(単位)	対象路線・範囲	H18現況値	H19目標値	見える化計画との関連			
県民の暮らしを守り、安心した暮らしを実現する道路整備	交通事故の削減	あんしん歩行エリアの整備(箇所)	直轄国道 一般国道 県道 市町村道	着手15箇所 ・完了7箇所 ・事業中8箇所 (事業継続中)	あんしん歩行エリアに指定された16箇所の整備により、平成19年までにエリア内の死傷事故件数の2割削減を目指す。	交通安全 見える化 プラン			
		事故危険箇所への対策推進(箇所)					直轄国道 一般国道 県道	着手165箇所 ・完了140箇所 ・一部完了22箇所 (事業継続中)	事故危険箇所に指定された174箇所への対策により、平成19年までに事故危険箇所内の死傷事故件数の3割削減を目指す。
		死傷事故が多発する「事故危険箇所」への対策推進とそれに伴う死傷事故の削減を成果とする。							
	死傷事故率の減少(件/億台キロ)	高速道路 直轄国道 一般国道 県道	140.2件/億台km	死傷事故率の削減を目指す。					
	1万台の自動車が1万km走行した場合に発生する死傷事故数の減少を成果とする。								
	医療・福祉の向上				高速道路 直轄国道 一般国道 県道		83.6%	群馬県地方道路整備計画に定めた最終年次の目標値85.2%を目指す。	
総合病院30分到達カバー圏域の拡大(%)									
環境を保全し、豊かな生活を支援する道路整備	渋滞の解消	渋滞箇所への対策推進(箇所)	高速道路 直轄国道 一般国道 県道	対策事業 ・完了27箇所 ・一部完了24箇所 ・未整備9箇所	新たに ・完了2箇所追加 へ向けた対策を推進する。	渋滞 見える化 プラン			
		渋滞箇所への対策を成果とする。							
	渋滞損失時間の削減(万時間/年)	高速道路 直轄国道 一般国道 県道	対策完了2箇所において0.6万時間/年削減(4.2%削減)	渋滞損失時間の削減を目指す。					
渋滞によって失われてしまう時間の削減を成果とする。									
空間の確保	自転車走行	サイクリングロード整備率(%)	サイクリングロードネットワーク計画の対象路線	64.5%	サイクリングロード整備率70%を目指す。(将来的には100%を目指す。)				
地域の自立と個性を守る道路整備	産業・観光の振興	幹線交通30分乗り入れ圏域の拡大(%)	高速道路 直轄国道 一般国道 県道	81.4%	北関東自動車道の伊勢崎IC 以東の延伸により乗り入れ圏域を86%に拡大する。(将来的には100%を目指す。)				
		新幹線駅または高速道路などのインターチェンジまで30分程度で到達可能な市町村数の増加を成果とする。							
		規格の高い道路の利用率の向上(%)	高速道路 直轄国道 一般国道 県道	10.8%	北関東自動車道の整備促進により将来的に大幅な向上を目指す。				
情報の公開	情報の公開	ホームページアクセス数(件/年)	全国	226,378件/年 (HPアクセスのみ ^注)	ホームページアクセス・携帯アクセスともに平成18年度の約20%増を目指す。				
		国土交通省高崎河川国道事務所、群馬県道路関係課のホームページアクセス数の増加を成果とする。							

(注)平成18年度の国土交通省ホームページカウンターが故障していたため、携帯アクセスをカウントから外した値で比較。

4. 交通事故の削減

指標1 あんしん歩行エリアの整備（箇所）

あんしん歩行エリアに指定された16箇所のうち、平成18年度までに事業に着手している15箇所に加え、平成19年度は残りの1箇所でも事業に着手し、平成19年度までにあんしん歩行エリア内における死傷事故件数の2割削減を目指します。

○平成18年度現況値：あんしん歩行エリア内での死傷事故件数2割削減に向けて事業継続

○平成19年度目標値：未着手の1箇所でも事業着手し、死傷事故件数の2割削減を目指す

指標2 事故危険箇所への対策推進（箇所）

平成19年度は、事故危険箇所174箇所のうち、残りの9箇所を加えた全ての箇所で事業に着手し、169箇所の対策を完了、4箇所の対策を一部完了とし、平成19年度までに事故危険箇所での死傷事故件数の3割削減を目指します。

○平成18年度現況値：事故危険箇所の指定を受けたエリアで継続的に事業を実施

○平成19年度目標値：事故危険箇所内での死傷事故件数3割削減に向けて事業継続

指標3 死傷事故率の減少（件/億台km）

あんしん歩行エリアや事故危険箇所、高崎河川国道事務所が推進する「交通安全見える化プラン」の対象箇所など、事故の多発する地点で交通安全対策を重点的に実施し、死傷事故率の減少を目指します。

○平成18年度現況値：140.2件/億台km

○平成19年度目標値：事故率の削減を目指す

■現況と課題

- あんしん歩行エリアや事故危険箇所の整備は計画通りに進んでおり、今後もさらなる推進が求められます。
- 前年度に比べ、死傷事故率は減少(144.7⇒140.2 件/億台km)、死者率も減少(死者率：0.94⇒0.92 人/億台km)、致死率は変化なし(致死率：0.65⇒0.65 人/件)。これは大きな事故が減少していることを示しており、事故対策の効果が現れていると考えられます。
- 道路種別にみると、幹線道路と生活道路における死傷事故率は全国平均を上回る水準となっており(幹線道路：全国 97.7,群馬県 118.1 人/億台km、生活道路：全国 208.3,群馬県 243.2 人/億台km)、これらの道路での対策が急務となっています。

■業績計画

◇あんしん歩行エリアの整備◇

- 生活道路における交通事故対策として、引き続きあんしん歩行エリアの整備を推進します。
- 今年度は、未着手であった1箇所の事業に着手し、着手率を100%とします。
- また、既着手で整備の終わっていない7箇所についても引き続き、整備を進めます。

全箇所	着手予定箇所	予定着手率
16箇所	16箇所	100%

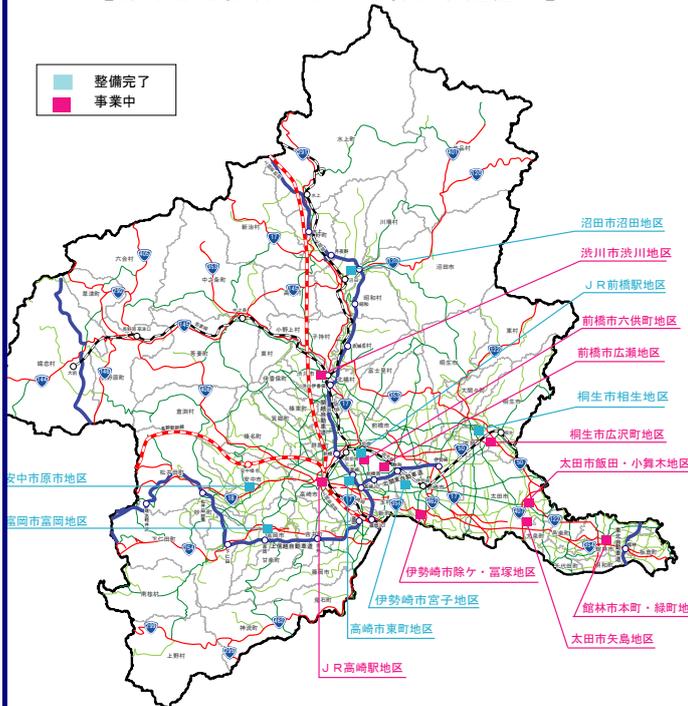
【あんしん歩行エリアの整備計画】

番号	地区名	備考	進捗
1	JR前橋駅(北口・南口)地区	歩道、コミュニティ道路の整備	完了
2	前橋市広瀬地区	歩道、コミュニティ道路の整備	事業中
3	前橋市六供町地区	歩道、コミュニティ道路の整備	事業中
4	JR高崎駅(東口・西口)地区	歩道、駐輪施設の整備	事業中
5	高崎市東町地区	通学路、バリアフリー整備	完了
6	渋川市渋川地区	通学路、バリアフリー整備	事業中
7	富岡市富岡地区	歩道整備、電線類地中化	完了
8	安中市原市地区	幹線道路の対策	完了
9	沼田市沼田地区	歩道、コミュニティ道路の整備	完了
10	伊勢崎市宮子地区	歩道の段差・勾配の解消	完了
11	伊勢崎市除ヶ・富塚地区	歩道の段差・勾配の解消	事業中
12	太田市飯田・小舞木地区	歩道、コミュニティ道路の整備	事業中
13	太田市矢島地区	歩道、コミュニティ道路の整備	事業中
14	桐生市相生地区	歩道、コミュニティ道路の整備	完了
15	桐生市広沢町地区	歩道、コミュニティ道路の整備	事業中
16	館林市本町・緑町地区	歩道整備、電線類地中化	事業中

■：平成18年度以前の事業着手箇所

■：平成19年度の事業着手予定箇所

【あんしん歩行エリアの着手予定箇所】



館林市本町・緑町地区
(主)前橋館林線

【あんしん歩行エリアの整備予定箇所】

◇事故危険箇所の整備◇

○幹線道路や生活道路の交通事故対策として、事故危険箇所において、交差点の改良、右折車線や道路照明の設置、道路標識や歩道の整備など、面的かつ総合的な死傷事故対策を講じています。

○今年度は、残る9箇所の未着手箇所を含む全ての箇所で事業に着手し、169箇所で行事業を完了、4箇所では一部完了とする予定です。

【事故危険箇所の整備計画】

	対象箇所			着手箇所			一部完了箇所			完了箇所			構成比 (%)		
	計	単路	交差点	計	単路	交差点	計	単路	交差点	計	単路	交差点	着手	一部完了	完了
国の管理区間	27	11	16	27	11	16	1	1	0	25	10	15	100.0	3.7	92.6
都道府県・政令市の管理区間	147	60	87	147	60	87	3	1	2	144	59	85	100.0	2.0	98.0
全体	174	71	103	174	71	103	4	2	2	169	69	100	100.0	2.3	97.1

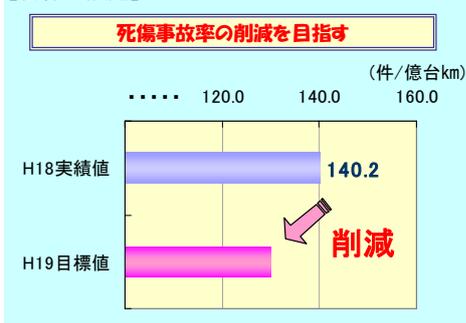
【事故危険箇所の整備予定箇所】

◇交通事故死傷率◇

○引き続き、あんしん歩行エリアや事故危険箇所など、事故の多発する地点で交通安全対策を重点的に進め、死傷事故率減少を目指します。

○高崎河川国道事務所が推進する交通安全見える化プランの対象箇所については、(主)高崎渋川線新町交差点や飯塚町南交差点など、34箇所中、6箇所で行事業が完了する予定です。

【目標の設定】



(主)平川横塚線(沼田市横塚町)
照明・区画線



国道291号(みなかみ町湯掛)
線形誘導

5. 医療・福祉の向上

指標4 総合病院30分到達カバー圏域の拡大(%)

総合病院に30分以内で到達できるエリア(可住地面積に対する割合)の拡大を目指し、事業の早急な推進を図ります。

○平成18年度現況値：83.6%

○平成19年度目標値：最終年次の目標値85.2%を目指し事業を継続

■現況と課題

○平成18年度は新たな供用開始区間がないため、圏域の拡大はありませんでした。

○今後もカバー圏域のさらなる拡大を目指し、中山間地域を中心とした未達成エリアにおける道路整備を推進することが求められます。

■業績計画

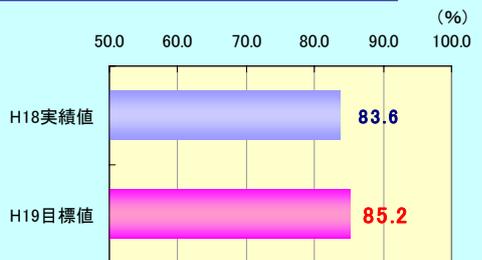
○平成19年度は群馬県地方道路整備計画に定めた最終年次の目標値85.2%を目指し、圏域拡大に資する3路線の整備を推進し、早期の拡大を目指します。

【圏域拡大に資する主な事業】

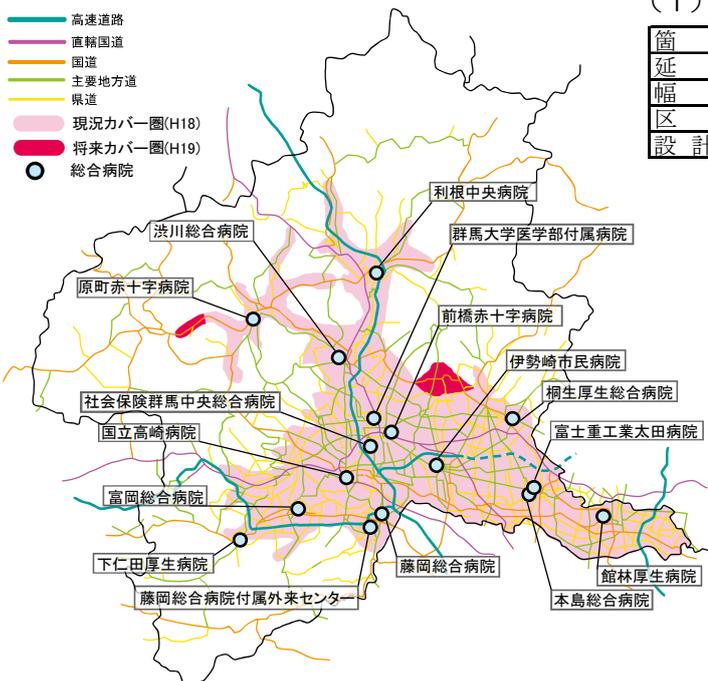
路線名	事業の内容	対象市町村
(一)苗ヶ島飯土井線	新規路線の整備(前橋市)	前橋市・桐生市
(一)林長野原線	バイパス整備(長野原町)	長野原町・東吾妻町
(一)林東吾妻線	バイパス整備(長野原町～東吾妻町)	長野原町・東吾妻町

【目標の設定】

到達カバー圏域の拡大を目指し、事業



【総合病院30分到達カバー圏域】



■カバー圏域を拡大する主な事業(1)

(1) (一)苗ヶ島飯土井線

箇所名	前橋市鼻毛石町
延長	1.7km
幅員	6.0(16.0)m
区分	第3種第3級(2車線)
設計速度	50km/h

○苗ヶ島飯土井線は、赤城南面地域と上武道路及び国道50号を結ぶ拠点開発支援道路「赤城南面中央道」と位置づけられており、地域観光振興への寄与が期待されます。



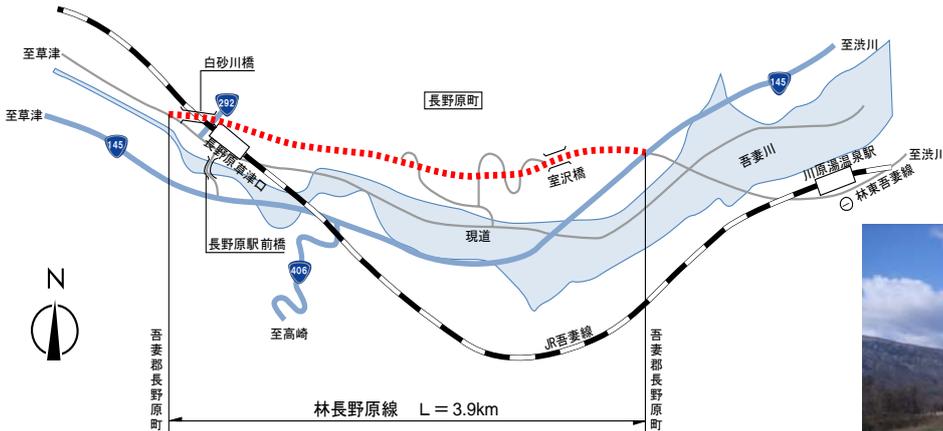
■カバー圏域を拡大する主な事業（２）

（２）（一）林長野原線

区間	自：長野原町林 至：長野原町長野原
延長	3.9km
幅員	6.0(13.5)m
区分	第3種第3級(2車線)
設計速度	40km/h

○林長野原線は、ハッ場ダム建設に伴う水没者の代替地である「林地区」および「長野原地区」を相互に結び、生活再建や地域振興を担う重要な路線です。また、この路線が、国道145号ハッ場パイパス・一般県道林東吾妻線と接続することにより、代替地全体の道路網が形成されます。

○平成19年度は、用地取得を図るほか、改良工事、橋梁工事を進めます。



【整備状況】

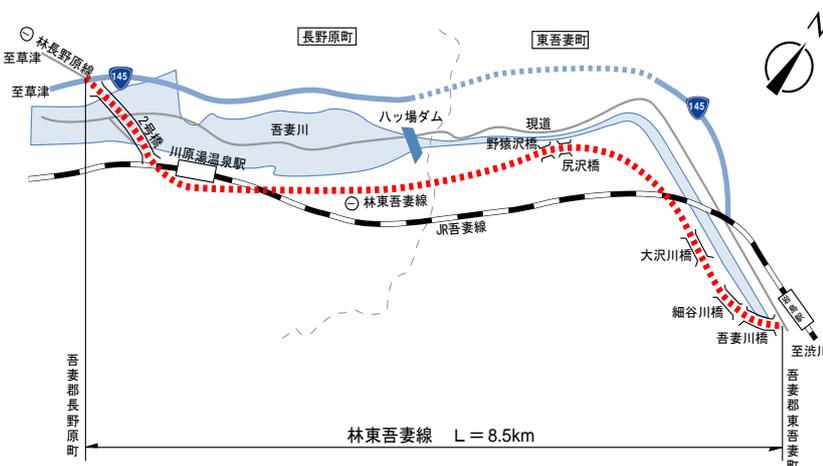


（３）（一）林東吾妻線

区間	自：長野原町林 至：東吾妻町岩下
延長	8.5km
幅員	6.0m(13.5m)
区分	第3種第3級(2車線)
設計速度	40km/h

○本路線は、ハッ場ダム建設に伴う吾妻川右岸の付け替え道路として計画され、長野原の「地域居住計画」に基づき、ダム建設による水没者の生活再建の場となる代替地「林地区」「川原湯地区」「三島地区」を相互に結び生活道路として整備を行っています。

○平成19年度は、用地取得を図るほか、改良工事、橋梁工事を進めます。



【整備状況】



6. 渋滞の解消

指標5 渋滞箇所への対策推進（箇所）

津久田停車場前橋交差点改良事業の完了、（国）17号鯉沢バイパス整備の事業進行により、青柳交差点、鯉沢交差点で渋滞の解消・軽減を目指します。

○平成18年度現況値：完了27箇所、一部完了24箇所、未整備9箇所

○平成19年度目標値：新たに、完了2箇所追加へ向けた対策推進

指標6 渋滞損失時間の削減（万時間/年）

鯉沢交差点の整備等により、県内の総渋滞損失時間8,512.8万時間/年の削減を目指します。

○平成18年度現況値：H18年度対策完了2箇所において約0.6万時間/年削減（4.2%削減）

○平成19年度目標値：渋滞損失時間の削減を目指す

■現状と課題

- 県内60箇所の主要渋滞箇所のうち、平成18年度までに対策事業完了が27箇所、一部完了が24箇所となっており、対策事業が実施されていない交差点は9箇所となっています。
- 平成18年度に対策が完了した2箇所では、平成17年度に比べ渋滞損失時間が、約0.6万時間/年削減（4.2%削減）され、今後も引き続き対策の実施が求められます。
- 群馬県の各道路管理者では平成17年度より、新たな交通状況を踏まえた「渋滞見える化プラン」として39箇所の渋滞箇所を選定し、渋滞の解消を目指した取り組みを展開しています。

■業績計画

- 平成19年度は、津久田停車場前橋交差点改良事業が完了する予定となっており、青柳交差点での渋滞が解消もしくは軽減されると期待されます。また、（国）17号鯉沢バイパス整備の事業進行により、鯉沢交差点での渋滞解消が期待されます。
- 県内の総渋滞損失時間8,512.8万時間/年からの削減を目指します。

	H14末	H15末	H16末	H17末	H18末	H19予定
対策事業完了	18箇所	20箇所	22箇所	25箇所	27箇所	29箇所
対策事業一部完了	21箇所	20箇所	21箇所	20箇所	24箇所	22箇所
未整備箇所	21箇所	20箇所	17箇所	15箇所	9箇所	9箇所

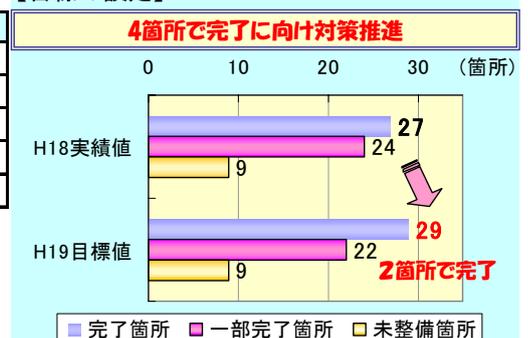
【平成19年度末の完了予定交差点】

番号	主要渋滞ポイント	道路名	対策事業
36	鯉沢交差点	(国)17号	(国)17号鯉沢バイパス整備
			(国)353号鯉沢バイパス整備※
			(主)高崎渋川線拡幅※
53	青柳交差点	(一)津久田停車場前橋線	(一)津久田停車場前橋交差点改良
			(一)南新井前橋線バイパス整備(上毛大橋)※

※(国)353号鯉沢バイパス、(主)高崎渋川線拡幅、(一)南新井前橋線バイパス整備(上毛大橋)は、過年度において完了しています。

【渋滞箇所への対策推進の達成状況】

【目標の設定】



■平成 19 年度供用予定事業

(1) 鯉沢交差点

○国道 17 号は、渋川市内を通過するとともに国道 353 号と接続する地理的条件により、交通渋滞が頻繁に発生していました。鯉沢バイパスは、この渋滞を解消するために計画された 4 車線 5.5km のバイパス事業です。

○昭和 62 年度に起点から国道 353 号バイパスとの交差点までの区間、2.3km について事業化。平成 8 年 10 月に暫定 2 車線が完了しました。延伸部 3.2km については、平成 9 年度から事業を行い、用地買収を進めるとともに、埋蔵文化財発掘調査を行い暫定 2 車線供用に向け工事を進めてきました。

○平成 19 年度は、2.3km の暫定区間の 4 車線供用と延伸部 3.2km の暫定 2 車線供用を行う予定です。

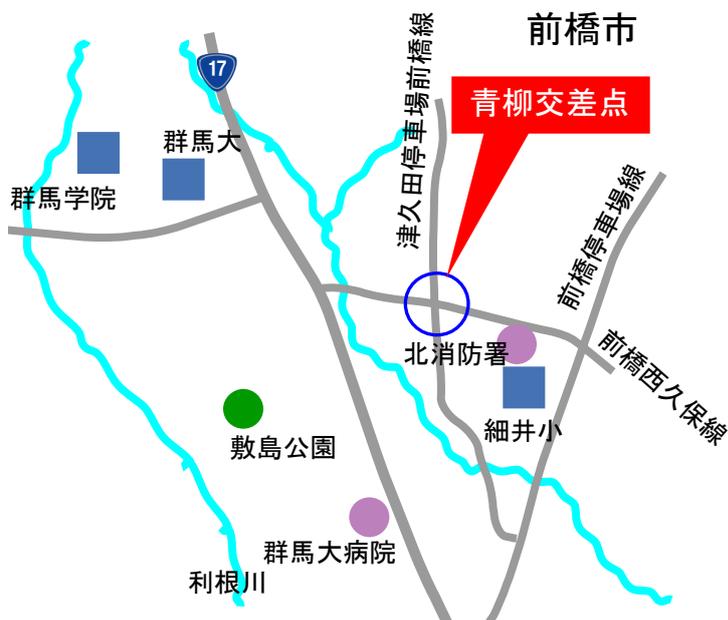


鯉沢交差点



(2) 青柳交差点 (津久井停留所前橋交差点改良)

○平成 19 年度は、前橋市青柳町の (一) 津久田停車場前場線と前橋西久保線の交差点である青柳交差点の渋滞対策を図ります。



7. 自転車走行空間の確保

指標7 サイクリングロード整備率 (%)

サイクリングロード整備率を向上させ、平成19年度までに「サイクリングロードネットワーク計画」の概成を目指します。

○平成18年度現況値：1,496.2km中、964.5km整備（整備率64.5%）

○平成19年度目標値：1,496.2km中、1,050km整備（整備率70.0%）

■現況と課題

○平成18年度末時点で整備率は64.5%であり、平成19年度では70%を目指し、効率的に事業推進を行う必要があります。

○自転車が利用しやすい環境整備だけでなく、意識啓発などソフト面での対応についても充実を図り、自転車の利用を総合的に促進し、「自転車王国ぐんま」の実現を強力に推進することが求められています。

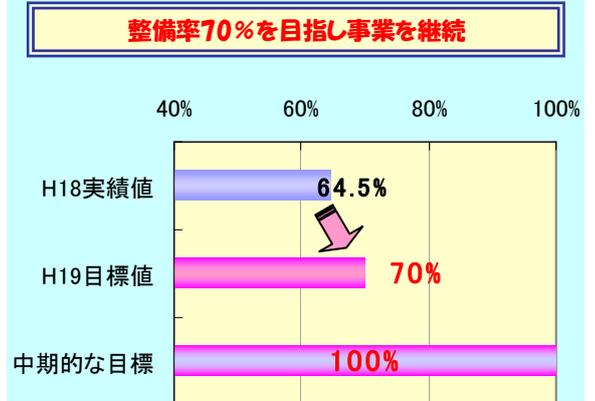
■業績計画

○平成19年度は、国道17号、18号、50号、254号、（主）桐生伊勢崎線、（主）大間々世良田線などで段差の解消等を進めるほか、自転車専用道路である利根川自転車道線の整備を進め、未整備区間531.7kmの早急な整備を目指します。

【平成19年度に実施予定の主な事業】

路線名	箇所	工事概要
国道17号	前橋市表町	歩道再整備(電線共同溝整備)
国道17号	藤岡市立石	歩道のセミフラット化工事
国道18号	安中市安中地先	歩道再整備(電線共同溝整備)
国道50号	桐生市広沢町(L=1800m)	段差解消などの歩道整備
国道50号	みどり市笠懸町阿左美	段差解消などの歩道整備
国道254号	甘楽町金井	自歩道の整備
(一)利根川自転車道線	前橋市下石倉町	自転車道整備
(一)利根川自転車道線	太田市前小屋	自転車道整備
(一)高崎伊勢崎自転車道線	伊勢崎市茂呂町	自歩専用道の立体化
(主)桐生伊勢崎線	桐生市錦町	歩道再整備(電線共同溝整備)
(主)大間々世良田線	太田市世良田町	自歩道の整備
(主)松井田下仁田線	安中市松井田町八城	歩道の整備
(一)一本木平小井戸安中線	安中市安中	歩道の再整備
(一)江口館林線	明和町田島	歩道の再整備

【目標の設定】



【整備事例 (一) 由良深谷線】



【整備事例 (一) 石倉前橋停車場線】



「ぐんま自転車少年団」は群馬から、主に利根川・江戸川サイクリングロードを使って、途中、自転車を使うことの大切さや自然環境の大切さ、周辺の歴史などを学びながら、自転車で東京ディズニーランド®を目指します。「ぐんまの子どもたちの元気！」を全国に向けて発信してくれる仲間を募集します。

募集 第1期 ぐんま自転車少年団員

— ディズニーランド®へ行こう！自転車で —

- 応募資格 群馬県内に在住の小学校5年生～中学校3年生
次の「実施日」、「テスト走行日」、「説明会日」に参加できる人に限ります。
- 実施日 (本番) 平成19年8月15日(水)～17日(金) 2泊3日
群馬～東京ディズニーランド®。
- テスト走行 平成19年7月7日(土)
(県内のサイクリングロードを、約60kmテスト走行します。
また、このテスト走行は保護者の方が同行することもできます。)
- 説明会 平成19年7月29日(日)
(仲間づくりや、本番に向けての注意事項などの説明を行います。)
- 募集人数 30名程度。個人で応募して下さい。
- 負担金 2万円/1人(宿泊費、帰りの交通費、東京ディズニーランド®の入場料など。)
- 募集方法 所定の応募用紙(裏面)を切り取り、下記応募先に郵送にて申し込んで下さい。
- 採用方法 応募多数の場合は抽選により内定し、内定通知を郵送します。
- その他
 - ・万一の事故などに備えて、傷害保険に加入します。
 - ・本人の責に帰する疾病・事故などによる治療費は個人負担となります。
 - ・安全のため、通気性のよいサイクリング用のヘルメット、グローブは必ず着用していただきます。また、サンダルでの走行は禁止です。
 - ・参加するにあたって、望ましい自転車は「スポーツ自転車」です。
 - ・テスト走行により、本番への参加が難しいと思われる方には、ご辞退いただく場合があります。テスト走行後、正式に団員を決定します。
 - ・個人情報につきましては、本事業のみの使用とします。



募集締切：平成19年6月15日(金)
※郵送の場合は当日の消印有効

問い合わせ・応募先
群馬県国土整備局道路企画管理課
道路施設安全グループ
〒371-8570 前橋市大手町1-1-1
TEL 027-226-3600 FAX 027-243-7285

8. 産業・観光の振興

指標8 幹線交通30分乗り入れ圏域の拡大（％）

新幹線駅または上信自動車道や北関東自動車道等、高速道路などのインターチェンジへのアクセス道路等を整備することにより、将来的には100%の達成を目指します。

○平成18年度現況値：81.4%^(注)

○将来的な目標値：100%（すべての市町村が30分圏域に）

○平成19年度目標値：北関東自動車道の伊勢崎IC以东の延伸により乗り入れ圏域を86%に拡大

(注)当該指標は平成18年度業績計画書では平成17年度実績値を81.4%としていますが、以前から群馬県が設定している目標との整合を図るため、平成15年3月末現在の70市町村を基準として設定しています。

指標9 規格の高い道路の利用率の向上（％）

北関東自動車道の全線供用により長距離を走行する交通を規格の高い道路に分担させ、高速道路と地域の幹線道路の適切な機能配分の実現を目指します。また、北関東自動車道や関越自動車道の料金を時間帯で割り引くなどの社会実験を実施し規格の高い道路の利用促進を図ります。

○平成18年度現況値：10.8%

○平成19年度目標値：規格の高い道路の利用率向上を目指し事業を継続

○将来的な目標値：大幅な向上

■現況と課題

○幹線交通30分乗り入れ圏域の拡大については、平成16年度以降、関連する道路で新たに供用開始したものがなく、81.4%のままとなっています。圏域拡大のためには、これに寄与する新幹線駅や既存のインターチェンジへのアクセス道路の整備と北関東自動車道の伊勢崎インターチェンジ以东の区間や上信自動車道の整備が不可欠であることから、これらを推進する必要があります。

○規格の高い道路の利用率については、平成17年度に比べ、わずかながら上昇しています。今後も利用率向上のため、北関東自動車道や関越自動車道では料金時間帯割引の社会実験を行い、規格の高い道路利用促進を行う等、高速道路等が利用しやすい環境整備を進める必要があります。

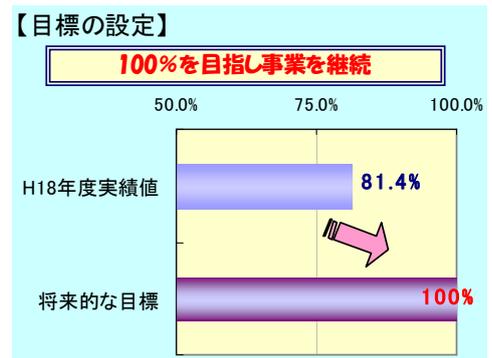
■業績計画

○平成19年度は、北関東自動車道や上信自動車道の整備を進めるほか、国道120号椎坂バイパス、(主)前橋長湍線、(一)大原境三ツ木線等の整備を進め、幹線交通30分乗り入れ圏域の拡大と規格の高い道路の利用率向上を目指します。

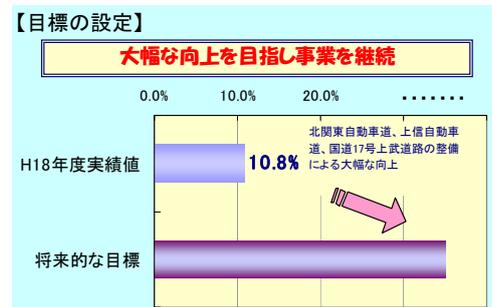
【平成19年度に実施予定の主な対策事業】

道路名	事業の内容	「幹線交通乗り入れ30分構想」が新たに達成可能となる市町村
北関東自動車道	伊勢崎IC以东への延伸	桐生市、太田市、大泉町（北関東自動車道 仮）太田IC
上信自動車道	整備促進	東吾妻町(旧吾妻町)、長野原町、嬬恋村、草津町、六合村(上信自動車道)
国道120号	椎坂バイパス整備(沼田市)	片品村(関越自動車道 沼田IC)
(主)前橋長湍線	バイパス整備(藤岡市)	神流町(旧万場町、旧中里村)(上信自動車道 藤岡IC)
(一)大原境三ツ木線	現道拡幅(太田市)	みどり市(旧東村)、桐生市(旧黒保根村)(北関東自動車道 仮)敷塚IC)

【幹線交通30分圏拡大の目標設定】



【規格の高い道路の利用率向上の目標設定】



■産業・観光の振興に向けた取り組み

(1) 北関東自動車道

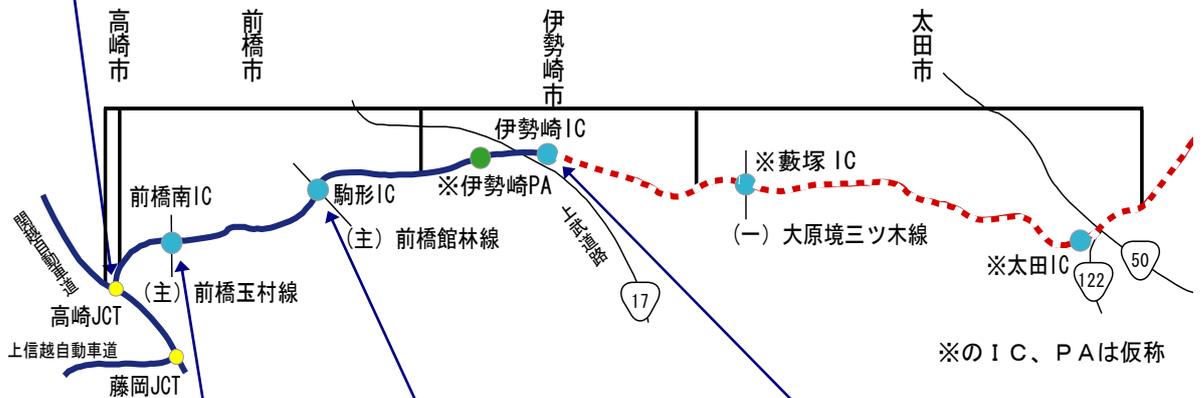
計画区間	群馬県高崎市(関越自動車道)～茨城県ひたちなか市(国道245号)
延長	約150km
構造規格	第1種第2級・自動車専用道路
設計速度	100km/h
車線数	4車線

○北関東自動車道は、東日本高速道路(株)(旧日本道路公団)が整備を進めている延長約150km(群馬県高崎市～茨城県ひたちなか市)の高速自動車国道であり、群馬県・栃木県・茨城県3県の主要都市及び北関東地区の海への玄関口となる常陸那珂港を結びます。また、東京から放射状にのびる関越自動車道、東北自動車道及び常磐自動車道と連結して、高速ネットワークを強化し、さらに上信越自動車道・中部横断自動車道と一体になって、東京から100～150km圏を環状に結ぶ「関東環状道路」を形成する高速道路です。

○群馬県内の区間32.7kmについては、高崎JCTから伊勢崎ICまでの14.5kmが平成13年3月31日に開通しており、伊勢崎IC～(仮)太田IC間が平成20年9月30日、(仮)太田IC～栃木県境までは平成24年3月31日の完成予定となっています。

○北関東自動車道(仮)太田ICの整備は、桐生市、太田市、大泉町が幹線交通30分乗り入れ圏域となることに寄与します。

【高崎ジャンクション】



【前橋南 IC】



【駒形 IC】

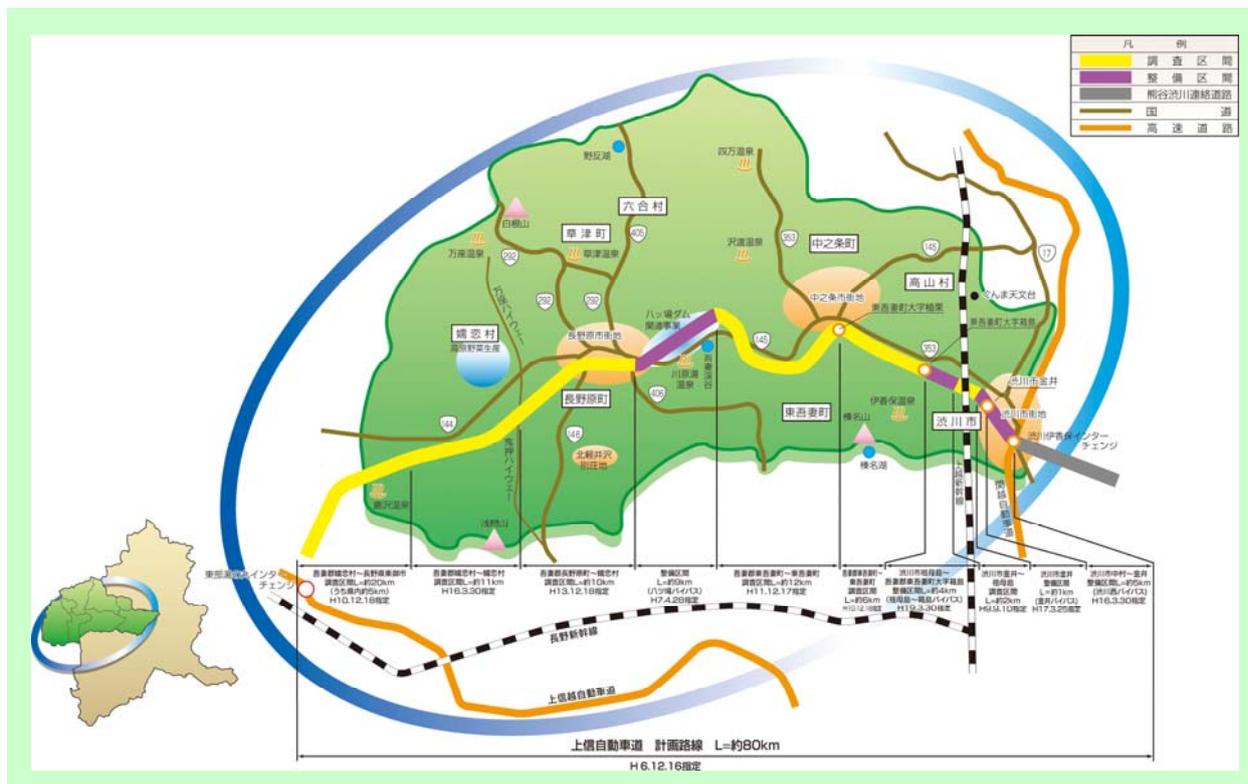


【伊勢崎 IC】



(2) 上信自動車道

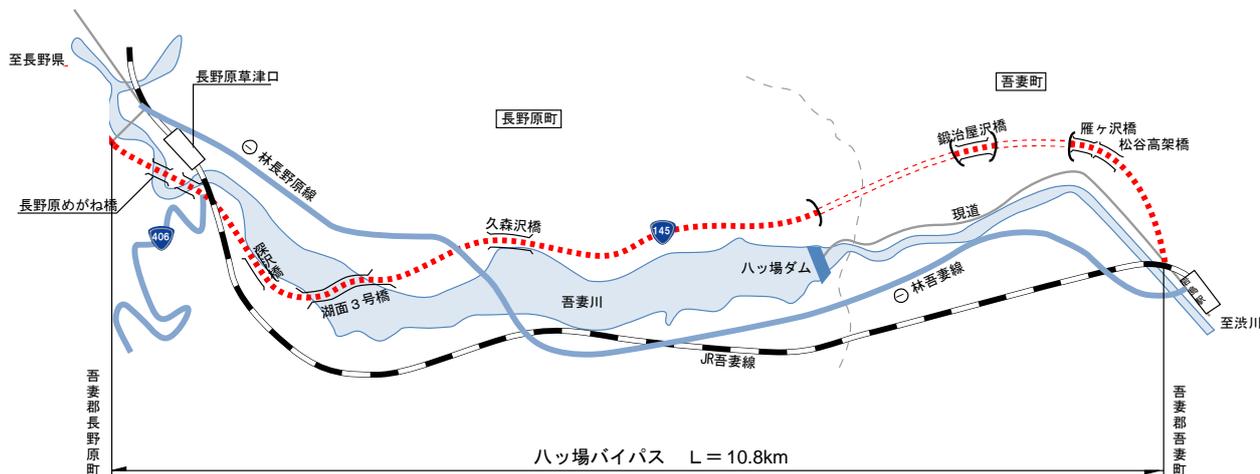
- 上信自動車道は、渋川市の関越自動車道・渋川伊香保 IC 付近から東吾妻町、長野原町、嬬恋村を經由して長野県東御市の上信越自動車道・東部湯の丸 IC 付近に至る延長約 80 km の地域高規格道路です。
- 本道路の整備により、東吾妻町、長野原町、嬬恋村、草津町、六合村が幹線交通 30 分乗り入れ圏域となることに寄与します。
- 現在、国道 145 号ハッ場バイパスを上信自動車道の一部として整備しているほか、国道 17 号渋川西バイパス、国道 353 号金井バイパス祖母島～箱島バイパスについても上信自動車道として整備する計画となっています。



※国道 145 ハッ場バイパス

区間	自:長野原町長野原 至:東吾妻町松谷
延長	10.8km
幅員	14.0m (25.0m)
区分	第3種第1級(4車線)
設計速度	80km/h(一部区間60km/h)

○ハッ場バイパスは、ハッ場ダム建設に伴う一般国道 145 号の付け替え区間として、ダム事業と協調しながら整備しています。



(3) 国道 120 号椎坂バイパス

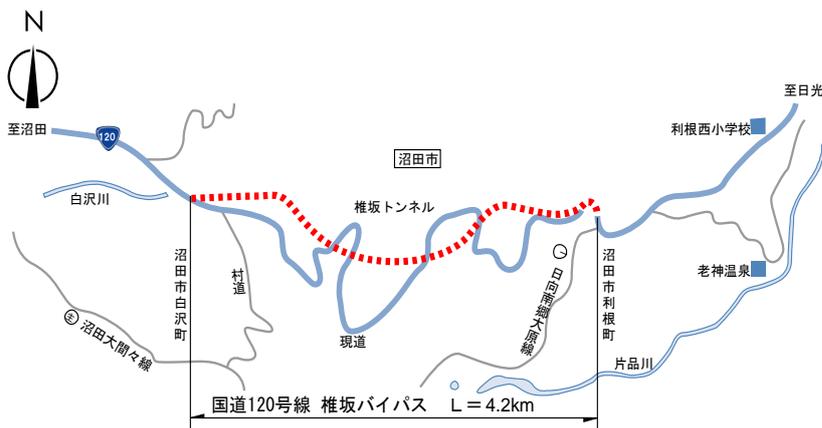
区間	自:沼田市利根町大原 至:沼田市白沢町生枝
延長	4.2km
幅員	6.5m(10.25m)
区分	第3種第2級(2車線)
設計速度	50km/h

【現在の状況】



○国道 120 号は、一般国道 17 号から関越自動車道沼田 IC を経て、片品・尾瀬・日光方面を結ぶ観光ルートです。しかし椎坂峠は、山道特有の急カーブが連続し、特に冬期は積雪や凍結の多い難所であり、これらを解消するため、椎坂トンネルを含む椎坂バイパスの整備を進めています。

○この事業により、片品村が関越自動車道の IC まで 30 分程度で到達することに寄与します。



(4) (主) 前橋長瀬線

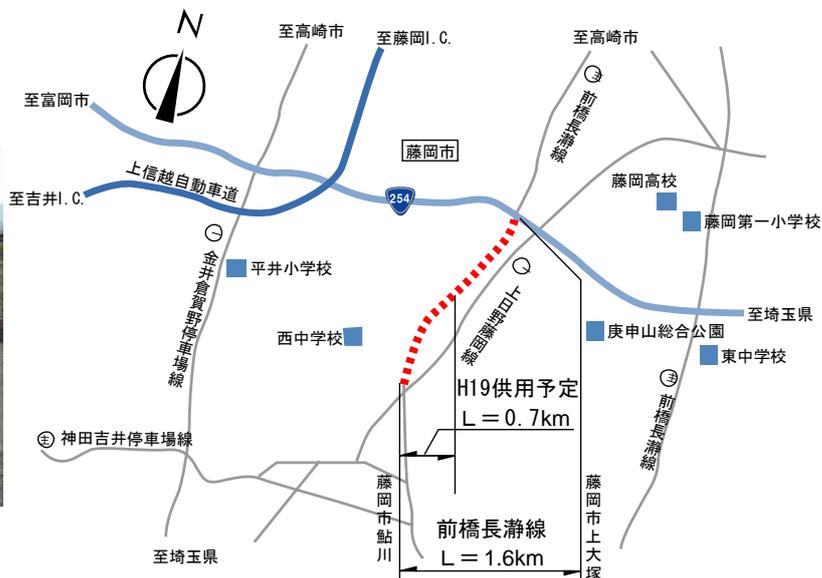
区間	自:藤岡鮎川 至:藤岡市上大塚(2期工区)
延長	1.6km
幅員	13.5(25.0)m
区分	第3種第2級 (4車線、暫定2車線)
設計速度	60km/h

【整備状況】



○(主)前橋長瀬線は、前橋市から高崎市、藤岡市等を経由して埼玉県長瀬町に至る都市間連絡道路です。

○この整備により、藤岡市街地において慢性的に発生している交通渋滞の解消と交通の円滑化が図られます。このほか、(国)462号を整備することにより、神流町の旧万場町及び旧中里村が上信越自動車道の藤岡 IC まで 30 分程度で到達することに寄与します。



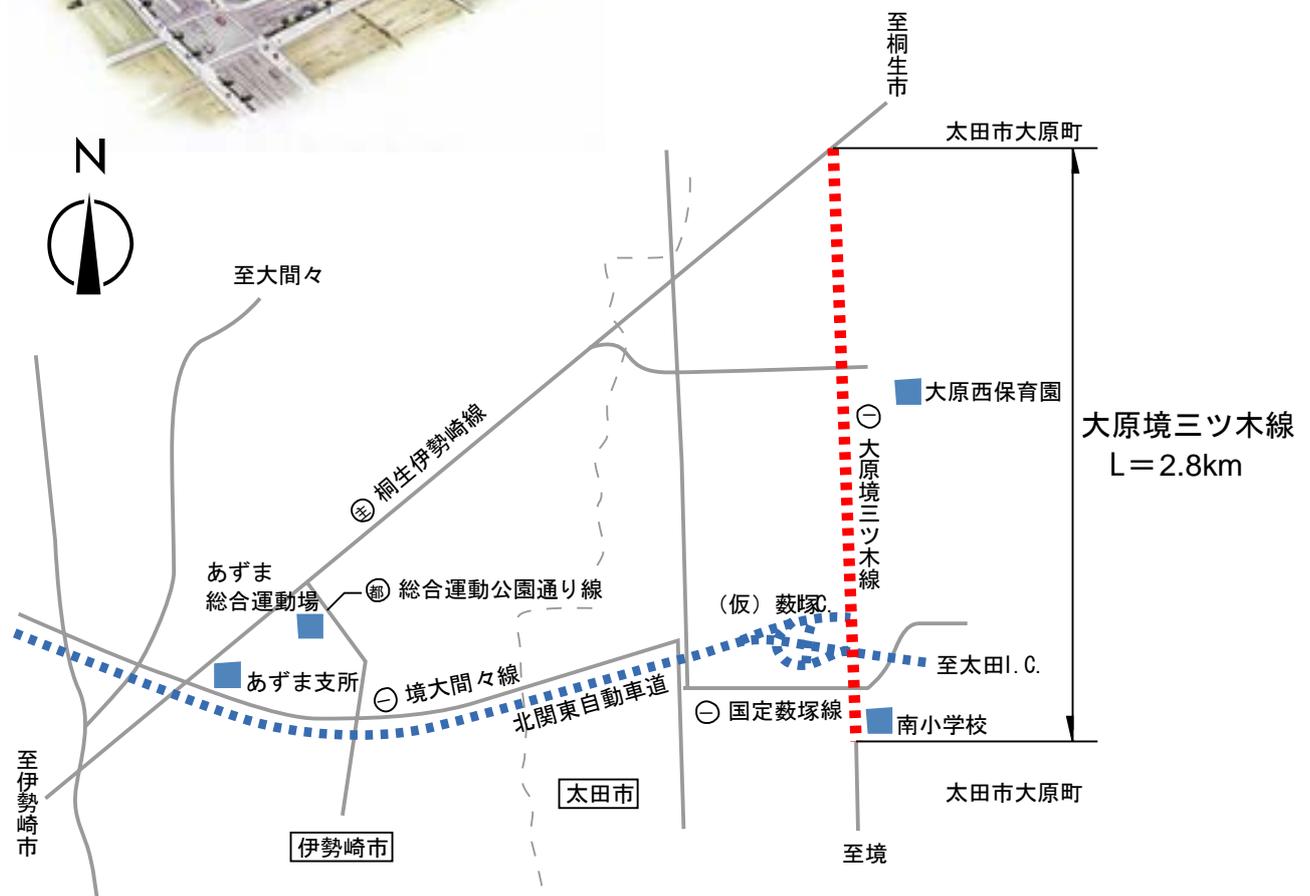
(5) (一) 大原境三ツ木線

区 間	太田市大原町
延 長	2.8km
幅 員	13.0m (35.0m)
区 分	第3種第2級(暫定2車線)
設 計 速 度	60km/h

【整備状況】



【(仮称) 藪塚 IC 周辺の整備イメージ】



○本事業箇所は、北関東自動車道(仮称)藪塚ICのアクセス道路として、藪塚ICの南側交差点から(主)桐生伊勢崎線までの間のL=2.8kmを整備するものです。

○この整備のほか、(国)122号等を整備することにより、みどり市東町および桐生市黒保根町から(仮)藪塚ICまで30分程度で到達することに寄与します。

■取組事例（規格の高い道路の利用率の向上に向けた取り組み）

地域の活性化支援（地域が抱える慢性的な渋滞の解消等）に向けた社会実験の実施

国土交通省では、今年度、高速道路ネットワークの更なる有効活用に向け、料金社会実験を進めることとしております。

平成19年度では、地域の活性化支援として、国道に並行する高速道路を有効活用し、現道の渋滞等の課題を解消・緩和するための料金割引を8月20日から開始することとしました。

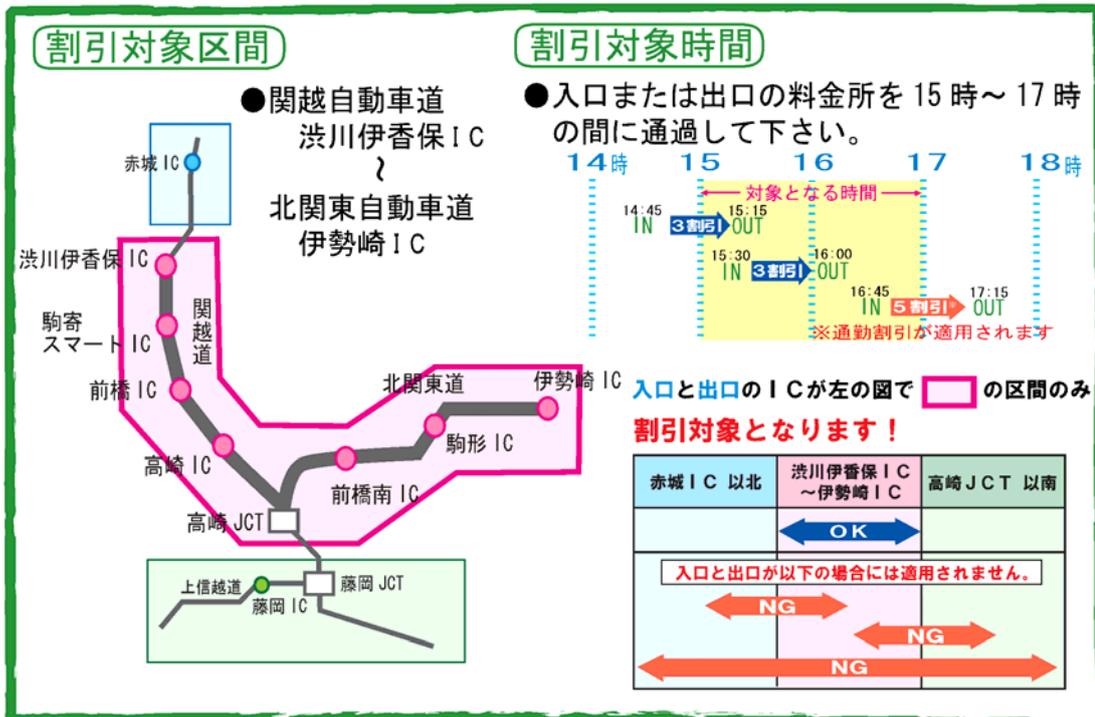
この地域の実験は、混雑している国道17号及び国道50号から、交通容量に余裕がある関越道及び北関東道へ交通を転換させることにより、国道の渋滞緩和、沿道環境改善等を目的としております。今後、群馬県関越自動車道及び北関東自動車道料金社会実験協議会にて実験を進めて参ります。

◇ 実験概要

- ・開始日時：平成19年8月20日（月）15時～
- ・対象時間：平日（月～金）15時から17時 ※祝日は除く
- ・対象車両：ETC無線通行車（全車種）
- ・対象区間：関越道 高崎、前橋、駒寄スマート、渋川伊香保および北関東道 前橋南、駒形、伊勢崎インターチェンジ相互の間
- ・割引率：3割引

平日夕方割引

関越自動車道・北関東自動車道（伊勢IC～渋川伊香保IC）



【国道17号の混雑状況(高崎市内)】

関越自動車道・北関東自動車道
ETC割引社会実験 【社会実験チラシ】

8月20日～ 関越道 北関東道 **料金3割引**
平日(月～金) 15時～17時 ETC無線通行車限定(全車種)

群馬県関越自動車道及び北関東自動車道料金社会実験協議会

9. 情報の公開

指標 10 ホームページアクセス数

国土交通省高崎河川国道事務所と群馬県道路関係課（県土整備局道路企画管理課、道路整備課）のホームページのアクセス数をホームページアクセス・携帯アクセスともに増加を目指します。

○平成18年度現況値：ホームページアクセス226,378件/年

○平成19年度目標値：ホームページアクセス・携帯アクセスともに平成18年度の約20%増加

■現況と課題

○国土交通省高崎河川国道事務所及び群馬県の道路関係課のホームページアクセス数は、トップページのリニューアル等の効果もあり、平成16年度の約11万件から22万件へと約2倍の増加となりましたが、平成18年度からのアクセス数増加はほとんどありません。また、ホームページカウンターが故障していたため、携帯アクセスがカウントされていなかった影響もあったのか、全国での順位は12位から25位への後退となっています。

○今後も、群馬県民ならびに群馬県の道路利用者のニーズを的確に把握し、それらをわかりやすく提示したホームページづくりを進めることで、アクセスの増加を目指す必要があります。

■業績計画

○携帯電話からのインターネット利用者がパソコンからの利用者を上回る社会状況下、平成17年度*では群馬県、高崎河川国道のホームページアクセス数の約7割が携帯からのアクセスであり、出先などでリアルタイムに求められる情報は携帯サイトからの利用が便利であると考えられます。今後の情報提供については、携帯サイトの充実を図ることを念頭に道路利用者のニーズに沿った的確でわかりやすい情報提供について検討しアクセス数の増加を図ってまいります。

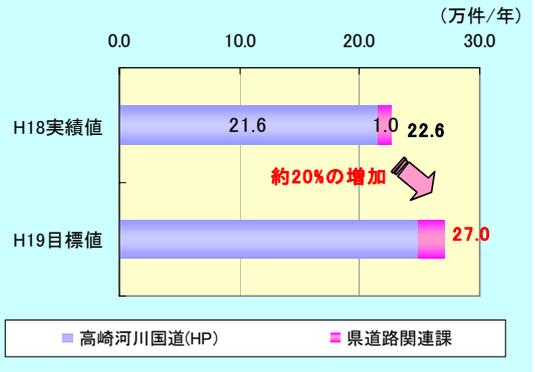
※）平成18年度値はカウンター機器の故障により不明。

【群馬県道路関係課のHP】



【目標の設定】

H18年度の約20%増の27万件/年



【高崎河川国道事務所のホームページ】

わかりやすい情報提供：たかさキッズ

携帯サイト「群馬みちかわi」